

膀胱がんについて

監修：大阪医科薬科大学 医学部 泌尿生殖・発達医学講座
泌尿器科学教室 教授 東 治人 先生



膀胱がんは、泌尿器のがんの中では最も発症頻度が高く、患者数は人口10万人あたり6.6人とされています。男性に多く(男性は女性の約4倍)、喫煙者は非喫煙者の2~3.5倍も発症率が高いとされています。

痛みを伴わない血尿が特徴的な症状で、60%以上にみられます。そのような症状が一度でもあったら、放置しないで早めに受診することが大切です。

こんな症状に気をつけて



❖ 突然、血尿がみられたら……

痛みなどの自覚症状を伴わない血尿が突然みられ、自然に消失することがあります。そのため、放置してしまうことも少なくありませんが、一度でも血尿がでた場合は、泌尿器科を受診することをお勧めします。特に高齢男性の場合は注意が必要です。



❖ 頻尿、排尿時の痛み、残尿感……

がんが進行すると、頻尿、排尿時の痛み、残尿感などの排尿症状がみられることがあります。膀胱炎と間違われることもありますので、なかなか治らない場合は、医師に相談しましょう。

血尿も排尿症状もさまざまな尿路の疾患にみられる症状です。膀胱がんの早期発見、早期治療につなげるためには、泌尿器科を早めに受診することが大切です。

血尿は膀胱がんの危険サイン



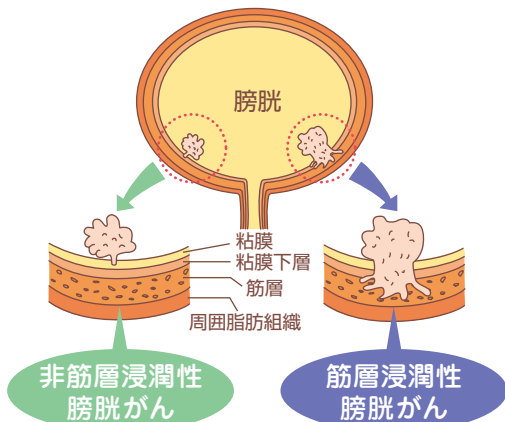
血尿は膀胱がんの初期にみられる症状ですが、この他にも前立腺がんや尿路結石、膀胱炎などの尿路感染症、尿路の外傷などさまざまな病気にみられます。

血尿は、痛みなどを伴う**症候性血尿**と痛みを伴わない**無症候性血尿**に分けられます。無症候性血尿の場合には、がんの可能性があるので、血尿が消失しても放置しないで、早めに泌尿器科を受診することをお勧めします。

分類	血尿がみられる主な病気
症候性血尿	膀胱炎などの尿路感染症 尿路結石 尿路の外傷
無症候性血尿	膀胱がん 腎がん 前立腺がん

膀胱がんは大きく2種類に分けられます

病期の進行によって、非筋層浸潤性と筋層浸潤性に大きく分けられ、治療法が異なります。



膀胱壁の粘膜下層までの深さにできるがんで、約70%はこのタイプです。多発しやすく、また再発しやすいがんですが、早期に治療をすれば予後は良好です。

悪性度が高く、膀胱壁の深くまで浸潤するタイプです。進行すると転移しやすいがんです。